

委員会審議	平成 30 年 11 月 26 日	
申請者	臨床検査技師長	永井信浩
1	在宅医療（訪問診療）における臨床検査の有用性について 医師へのアンケート調査	
研究の概要	<p>(1) 背景 2017年6月から在宅医療（訪問診療）へ臨床検査技師も同行し臨床現場即時検査（POCT）を行っているが、今後の必要度について調査したい。</p> <p>(2) 目的 訪問診療で臨床現場即時検査（POCT）による臨床検査の必要性について医師へのインタビュー調査のお願いを目的とする。</p> <p>(3) 対象及び方法 1) 対象及び方法 ・2018年11月承認後から文書によるアンケート調査</p> <p>(4) 実施場所及び実施期間 ・国立病院機構 茨城東病院 胸部疾患・療育医療センター ・期間：審査承認後から2019年1月31日 ・解析：審査承認後から2019年2月28日</p>	
判定	不承認	本審査は不承認となった。

委員会審議		平成 30 年 11 月 26 日
申請者	臨床検査技師	小林 昌弘
2	日本におけるノカルジア症の臨床的疫学と感受性に関する後方視点的研究	
研究の概要	<p>(1) 背景</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本では、ノカルジアの菌種同定とその感受性を一般医療機関で調べることは困難なことが多い。千葉大学真菌医学研究センターは、ノカルジアの最終同定と感受性に関する微生物学的調査を行う最大の機関の一つである。今回、千葉大学真菌医学研究センターで同定された日本全国の検体の臨床情報を後方視点的に収集し、日本のノカルジア症の疫学を明らかにする。さらに、各施設から死亡率がわかれば、90 日後、1 年後の死亡率に関するリスクファクター解析をする予定である。 <p>(2) 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の施設で診断されたノカルジア症の患者の臨床的特徴、治療および転帰を記述する。 日本におけるノカルジア症の感受性を記述する。 <p>(3) 対象及び方法</p> <p>1) 対象</p> <p>下記を満たす当院の患者</p> <ol style="list-style-type: none"> 年齢>18 歳 臨床的検体からノカルジアが検出されている ノカルジアに合致する症状所見がある。 2010-2017 年の間にノカルジア症と診断されている 臨床検体が千葉大学真菌医学研究センターに送付され解析されている <p>2) 方法</p> <p>当院から千葉大学真菌医学研究センターへノカルジアの菌同定及び感受性を依頼した症例の患者情報、診断過程、治療経過をカルテから情報を得て、所定のデータコレクションフォームに記載し、本研究の共同研究施設である多摩総合医療センター感染症科に送付する。</p> <p>なお、菌の細かい菌名や感受性は千葉大学真菌医学研究センターからデータが与えられる予定である。当施設からは、小林昌弘が施設責任者として参加する。多摩総合医療センター感染症科にて送付されたデータ用紙を手入力しデータベースを構築し、解析を行う。</p> <p>1 年後の生存率については、電子カルテでフォローできれば受診状況をもって生存の確認とするが、1 年後以後に受診がない場合は、本人もしくは家族に生存確認を電話にて問い合わせを行う。電話連絡は、施設責任者である小林昌弘が施行する。</p> <p>(4) 実施場所及び実施期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 茨城東病院細菌検査室 期間：2010 年から 2017 年(なお追加で 2010 年以前に過去に遡って症例を追跡する可能性があるが、そのときは再度倫理委員会に申請する) 	
判定	条件付承認	本審査は条件付で承認となった。

委員会審議		平成 30 年 11 月 26 日
申請者	臨床検査技師師	中村 晃太
3	EBUS-TBNA における細胞診の有用性	
研究の概要	<p>(1) 背景 Endobronchial Ultrasonography-guided Transbronchial Needle Aspiration (EBUS-TBNA) とは、気管、気管支腔内から超音波を用い経気管支針生検を行う方法で、肺癌症例における縦隔・肺門リンパ節転移の診断や縦隔リンパ節腫脹の原因検索や肺内周囲病変の診断目的に用いられる。</p> <p>(2) 目的 気管・気管支周囲病変の診断において EBUS-TBNA の診断率は文献等で 90 %前後と報告されている。本研究では、EBUS-TBNA を行った症例について、組織診・細胞診の結果を後方視的に検討し、細胞診検査の有用性について検討することを目的とした。</p> <p>(3) 対象及び方法 2010 年 4 月から 2018 年 10 月に EBUS-TBNA が行われた患者を対象に検体採取部位、組織診断で得られた組織型、細胞診で得られた Class 分類や組織型のデータを電子カルテ、部門システムから抽出し比較検討を行う。</p> <p>(4) 実施場所及び実施期間 独立行政法人国立病院機構 茨城東病院 胸部疾患・療育医療センター 臨床検査科病理検査室 〒319-1113 茨城県那珂郡東海村照沼 825 実施期間 2010 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日 解析期間 2017 年 5 月 1 日～2020 年 12 月 31 日</p>	
判定	承認	本審査は全会一致で承認された

委員会審議	平成 30 年 11 月 26 日
-------	-------------------

申請者	
-----	--

4	脳性麻痺患者の筋緊張への看護介入の効果 ～温罨法の有効性の検証～
---	----------------------------------

研究の概要	<p>1) 目的 脳性麻痺患者に法を実施することで、筋緊張の軽減が図れるか明らかにする。</p> <p>2) 対象及び方法 (1)対象 脳性麻痺患者 32 名 (2)方法 ①ホットパックの準備について アクアゲルホットパックゲル（タイヘイ社製 30 cm?34 cm）を表面温度 50 度まで温め、患者実施時は表面温度 40 度で使用する（温度測定については防水デジタル温度計を使用） ②アシュワーススケール【Modified Aahworth Scale(MAS)】 患者の関節を測定者が他動的に動かした際の抵抗感を 6 段階で評価し、痙縮について評価する。</p> <table border="1" data-bbox="450 761 1391 1209"> <thead> <tr> <th>グレード</th> <th>判定基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>緊張の増加なし</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>軽度の緊張亢進があり、可動域の初期か週末にわずかな抵抗感がある。</td> </tr> <tr> <td>1+</td> <td>軽度の緊張亢進があり、可動域の初期から引き続き 1/2 まで抵抗感がある。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>さらに亢進した筋緊張がほぼ可動域全体にある</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>著明な筋緊張亢進があり、他動運動は困難である。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>他動では動かない</td> </tr> </tbody> </table> <p>③温罨法の実施方法について (1) 温罨法の実施前・中・後のデータ測定を行う。 (2) 温罨法実施時間は抗てんかん薬・筋弛緩薬等の影響を可能な限り排除した内服 2 時間前に設定する。 (3) 温罨法実施前に体温、脈拍、SPO2 を測定し感染兆候がみられないか確認する。ホットパックを専用カバーに包み腰背部に当て、開始前、開始から 10 分、20 分、30 分にアシュワーススケール (MAS) で測定する。 ・アシュワーススケール (MAS) の観察部位は肘関節とする。 ・実施中・後も皮膚の状態を観察し、発赤や痛みや不快感などの異常があればすぐに中止し、状況に応じて医師に依頼するなど、症状緩和のための対処を行う。 (4) 測定者は看護研究メンバーが行う。</p> <p>3) 実施場所及び実施期間 (1)実施場所 11 病棟病室ベッド上 (2)実施期間 平成 30 年〇月から</p>	グレード	判定基準	0	緊張の増加なし	1	軽度の緊張亢進があり、可動域の初期か週末にわずかな抵抗感がある。	1+	軽度の緊張亢進があり、可動域の初期から引き続き 1/2 まで抵抗感がある。	2	さらに亢進した筋緊張がほぼ可動域全体にある	3	著明な筋緊張亢進があり、他動運動は困難である。	4	他動では動かない
グレード	判定基準														
0	緊張の増加なし														
1	軽度の緊張亢進があり、可動域の初期か週末にわずかな抵抗感がある。														
1+	軽度の緊張亢進があり、可動域の初期から引き続き 1/2 まで抵抗感がある。														
2	さらに亢進した筋緊張がほぼ可動域全体にある														
3	著明な筋緊張亢進があり、他動運動は困難である。														
4	他動では動かない														

判定	不承認	本審査は不承認となった
----	-----	-------------